

オーディオ実験室収載

ZANDEN Model 120 の活用(19) —Model 120 設定条件の試聴(19)—

1. 始めに

前報(19)に引き続き、アナログ盤を選定して Model 120 の設定条件を替えて試聴していきます。今回は、マーラーの交響曲の盤を選定しました。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の導入(2)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス／バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→300B シングルアンプ(バランス入力端子)

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、Garrad401 の再構成(10)と同様、下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→P&フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→BACU-2000→(バランスケーブル)→300B シングルアンプ

音源としては、下記のマーラーの交響曲 1 番の盤を選んで聴いていきます。

AngeLEAC-55004 (東芝 EMI)

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番ニ長調
カルロ・マリア・ジュリエーニ指揮シカゴ交響楽団

Warner Pioneer(Moss Music Group) H-1002V

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番ニ長調
ハロルド・フーバーマン指揮ロンドンシンフォニーオーケストラ

CBS SONY 32AC 1420

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番ニ長調
ズビン・メータ指揮ニューヨークフィル

LONDON SLC 1744 (キングレコード)

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番ニ長調
ゲオルグ・ショルティ指揮ロンドン交響楽団

3. Model 120 設定条件の試聴結果

試聴は、RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第 4 時定数も決めていきます。

AngelEAC-55004 (東芝 EMI) のジュリーニ盤では、RIAA の正相からスタートし、すぐに逆相にして、カーブを替えてみました。TELDEC でも良さそうでしたが、EMI にするともっと迫力が出てきます。第 4 時定数は Mid にすると響きもよくなりました。

Warner Pioneer(Moss Music Group) H-1002V のフーバーマン盤では、RIAA の正相からスタートし、すぐに逆相にして、カーブを替えてみました。Columbia が、バランスが良いようですが、少しうるおいがたりませんので、第 4 時定数を Mid から Low まで変えてどうやら落ち着いたようです。デジタル録音だから、アナログらしい音がしないと思い込んでいましたが、3 つの条件を選択していくと、アナログらしい音で聴けるようになりました。

CBS SONY 32AC 1420 のメータ盤では、これまでの CBS SONY レーベルの経験から Columbia の逆相から聴き始め、第 4 時定数を Low にしますと、バランスの良い音になりました。

LONDON SLC 1744 (キングレコード) のショルティ盤では、これまでの LONDON レーベルのキングレコード盤の経験から TELDEC の逆相から聴き始め、これでしつくりきました。第 4 時定数は High のままで良さそうです。Garrad401 の ZYX R100-EX でも聴いてみましたが、位相反転すると、オーケストラの各パートの音の焦点があつてきます。

4. まとめ。

マーラーの交響曲 1 番ばかり 4 レベル聴いてきましたが、条件設定を選んでいくと、どのレーベルもこれまでレーベル毎の特徴の音があると思っていたのが、演奏会の馴染みの音から違和感を感じることなく、オーケストラ毎の演奏のスタイルの違いみたいなものが感じとれるようになりました。

以上